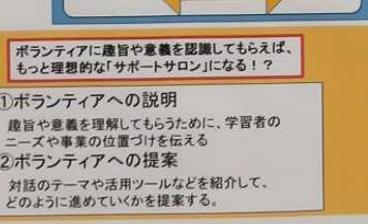
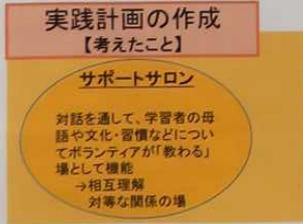
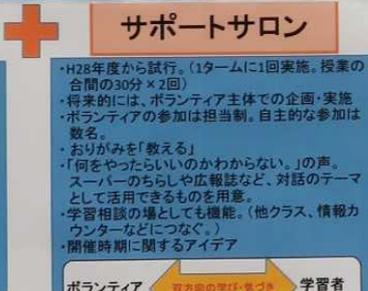
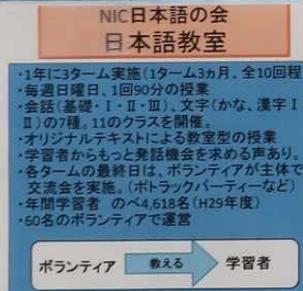
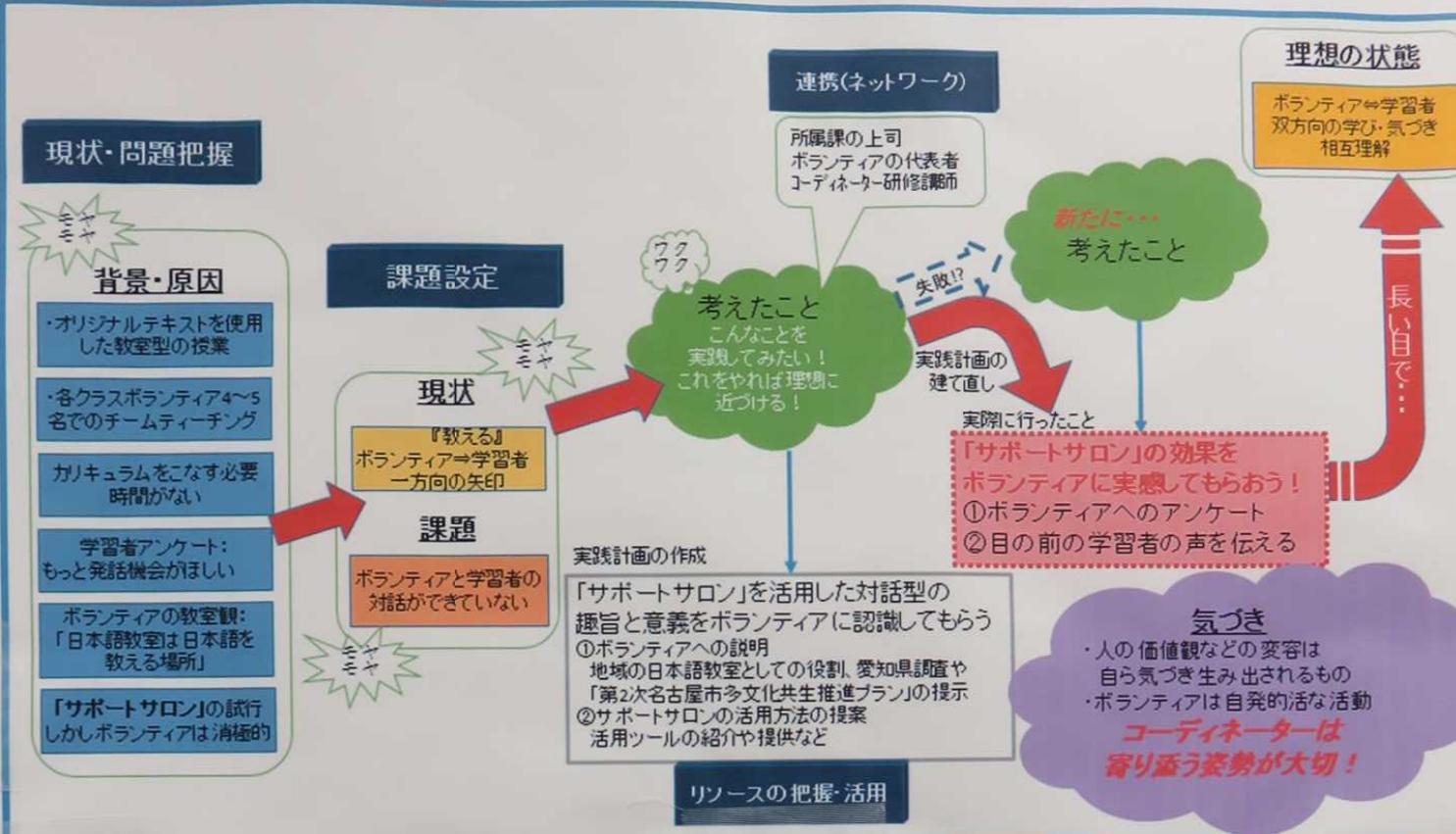


ボランティアと学習者の対話による相互理解の促進にむけて ～失敗からの学び～

実践活動の思考プロセス
取り組みをとおして「考えたこと」「行ったこと」

公益財団法人名古屋国際センター(NIC) 浅野 順子 vol@nic-nagoya.or.jp



サポートサロンの活動を振り返るアンケートの結果 (回答者数15名)

- ① 教室の授業とサポートサロンとは何かの違いがあるか。
 - ・(授業とは違って)リラックスした雰囲気がある。【複数】
 - ・学習者と同じ目線で親しく話せる。気軽に話せる。(授業とは違って)学習者が構えていない授業中は遠慮して質問できない学習者が、サポートサロンではいろいろな質問してくれる。
 - ・語学力が異なる受講者が会話できる点。
 - ・サポートサロンは学習者主体の会話になる。
- ② サポートサロンは効果的だと思うか。
 - 【ボランティア⇨学習者の効果】
 - ・会話力に伸びて話をするようになる。
 - ・学習者と打ち解けて会話ができる。
 - ・話が広がり、細かいことを聞くことができる。
 - ・学習者と距離が近くなる。
 - ・学習者と思っ存分、話したいことを話せるので交流という点では効果的。
 - ・ボランティアも楽しめる点が魅力。
 - ・学習のことや個人的な悩みなどの相談にのることができる。
 - 【学習者⇨学習者の効果】
 - ・学習者同士の自由な会話ができる点。
 - ・話しやすい場なので、同じ出身や母語同士で学習者同士の仲づくりができる。
 - ・異なるクラスや国の人たち同士でコミュニケーションができる点。
- ③ サロンで学習者とのんことを話したか。
 - 【日本語の学習や教室に関すること】
 - ・授業で困ったこと、授業の様子と満足状況、授業の復習と次の課の予習、日本語教室のルールについて
 - 【日本での生活に関すること】
 - ・日本の生活の中で疑問点、日本の観光地
 - 【学習者の母国に関すること】
 - ・学習者の仕事の話、母国の自慢話、母国の気候、学習者の母語の基礎知識
 - 【その他】
 - ・食べ物の話、お互いの趣味

- ④ 学習者との対話を通して新たに知ったことや気づいたこと。
 - ・ゆっくり丁寧にやさしい日本語で会話をしていたが、いつも(日本人と話をするとき)と同じペース、同じスピードで話して欲しいと言われてびっくりした。学習者はレベルにもよるが、ボランティアに対して、普段使う日本語で話することを求めていることを知った。
 - ・本当に自分が話したいことを話すと、学習者はイキイキと話すのだという事に気が付いたことや気づいたこと。
 - ・学習者の母語のしくみ。英語以外で学習したことがなかったのが新鮮だった。
- ⑤ サポートサロンについてのアイデア。
 - ・サポートサロンの回数を増やしてみたらどうか。(参加者も増え、いろいろな質問されること) 多くなってきたため
 - ・学習者から、もっとサポートサロンを開催してほしいという声があった。
 - ・もっとボランティアの参加が増えるといい。
 - ・30分は短い。

●アンケート結果のまとめ●

- ・授業と比べて、リラックスした雰囲気「ボランティア(教える人)⇨学習者(教えてもらう人)」という関係性からの解放
- ・ボランティアも自由に会話を楽しむ場
- ・「ボランティア⇨学習者」だけでなく「学習者⇨学習者」の交流の場、在住外国人同士の仲間作りの場
- ・新たな学習者ニーズの発見。ティーチャートークではなく、日本語母語話者としての役割
- ・学習者の母語に関する知識の習得
- ・ボランティア、学習者ともに開催頻度や時間に対する積極的な考え

→ 予題を裏切り、前向きな意見が多かった。すでに「サポートサロン」の効果を実感!!!

実践を通して学んだこと

アンケートを通して、ボランティアの考え方を改めて知るきっかけになった。活動の意義(明)したり、方法を「提案」するよりも、密なコミュニケーションにより共感を促し、意欲を引き出す大切。

コーディネーターの役割
ボランティアの自発的な活動に寄り添いサポートする。

【今後の課題】
これまでサポートサロンに参加したことのないボランティアや教室以外の活動に関心のないボランティアのように巻き込むか。
【今後の予定】
ボランティア代表者の提案により、次回(4月)の例会でアンケート結果をボランティア全員に示すことが決定!

